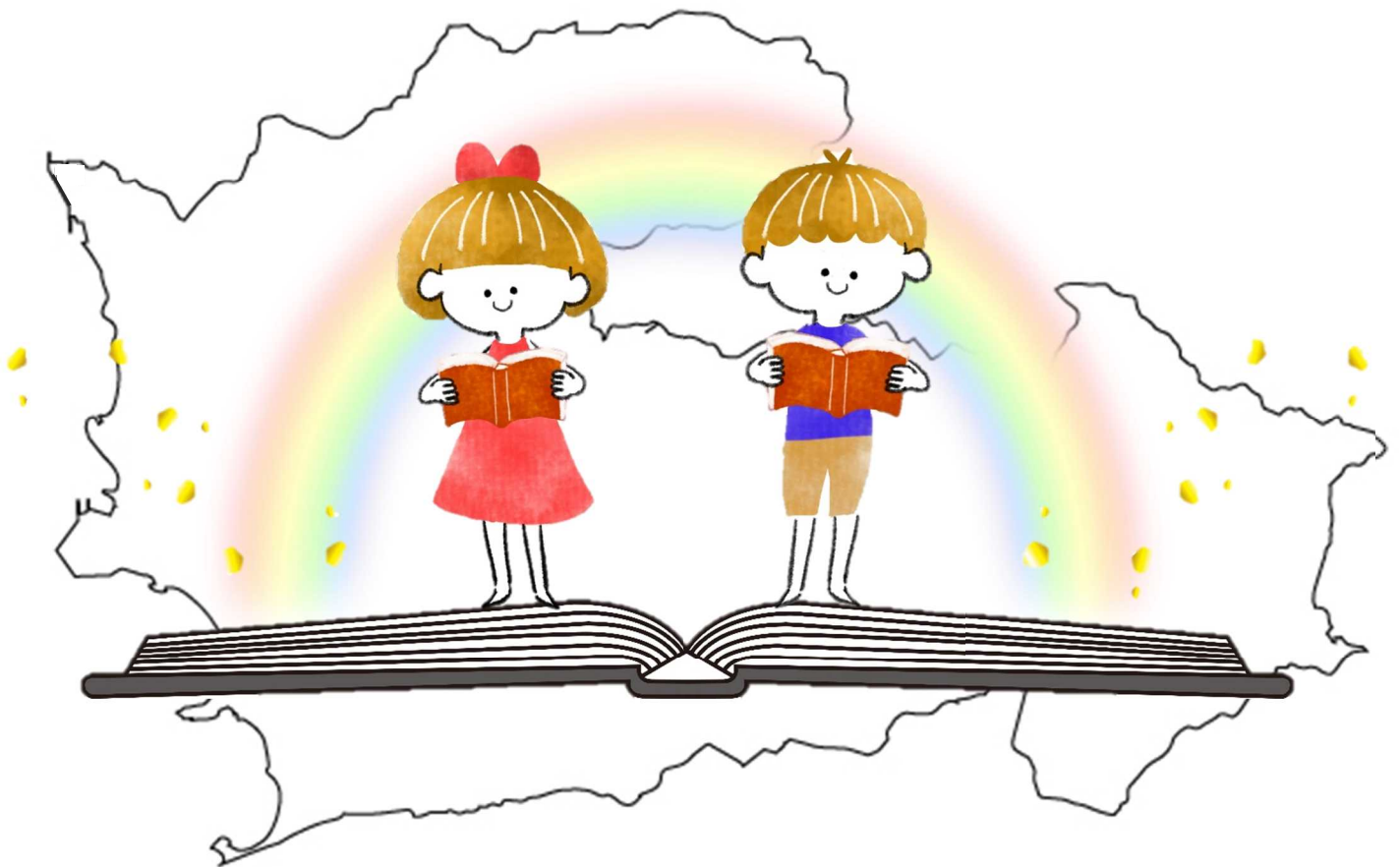


令和 2 年度
神奈川県社会教育委員連絡協議会
地区研究会【葉山町会場】



生涯学習活動に関する調査研究から見たこと
～読み聞かせ活動の充実に向けた取り組み～

主催

神奈川県社会教育委員連絡協議会
葉山町社会教育委員の会議

目次

あいさつ

令和2年度地区研究会（葉山会場）の開催にあたって

神奈川県社会教育委員連絡協議会会長 鈴木 眞理・・・2

地区研究会（葉山会場）の書面開催にあたって

葉山町社会教育委員の会議議長 佐々木 和子・・・3

I 葉山町の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

II アトラクション団体の紹介

葉山御前太鼓保存会・・・・・・・・・・・・・・・・5

葉山町木遣保存会・・・・・・・・・・・・・・・・6

III 人権講話「車椅子の世界」

小曾根 亮・・・・・・・・・・・・・・・・7

IV 活動紹介「生涯学習活動に関する調査研究から見たこと～読み聞かせ活動の充実に向けた取り組み～」

活動紹介1「生涯学習活動に関する調査研究について」・・・9

活動紹介2「葉山町の読み聞かせ活動について」・・・11

令和2年度地区研究会（葉山会場）の開催にあたって



神奈川県社会教育委員連絡協議会
会 長 鈴 木 眞 理

神奈川県社会教育委員連絡協議会の地区研究会が葉山町で開催されることに際して、会長としてご挨拶させていただきます。

今年は、実際に会場を利用しての開催ではなく、冊子を作成しての「書面開催」という形の開催です。何年も前から、さまざまな準備をしてこられた関係者の皆様には、通常の開催でのご負担以上のご苦勞をおかけしたことだと思います。心より、お礼申し上げます。新型コロナウイルスの蔓延も終息の兆しが乏しく、さらに長い期間、これまでの状況が続くと考えて行動しないといけないように思います。できることをそれぞれの場で、工夫をしながらやっていくしかないのだと思います。

神奈川県社会教育委員連絡協議会でも、総会や理事会は書面開催を余儀なくされ、研修会は日程を変更して開催の準備をしている状況です。そのような中でも、社会教育の重要性は、少しも変わるものではないと思います。いやむしろ、重要性は増しているのだと思います。

結局のところ、このような状況を変えていくのは、個人個人の行動によるところが大きいのだと思います。どのような施策が講じられようと、それに「乗るか乗らないか」は、個人個人の決定によるのだと思います。一人一人が、さまざまなことを知って・考えて、周囲の人と一緒に行動をする、そのようなことを支援するのが社会教育の役割なのでしょう。

人と人との「接触」は社会教育の基礎です。さまざまな「接触」のありようを検討し、より濃厚に「接触」できる形が追求できるといいと思います。早い機会に「元に戻る」ことができるように願いつつ、今年度の地区研究会（葉山大会）に臨みたいと思います。

地区研究会（葉山会場）の書面開催にあたって



葉山町社会教育委員の会議
議長 佐々木 和子

令和2年に入り、私達が今までだれも経験したことがないコロナ禍に襲われ、11月に予定していた神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会（葉山会場）は紙面での開催となりました。

本来ならば、会場までお越し頂き、葉山の空気を感じて頂きながらの開催にしたいと思っておりましたが、返す返すも残念です。

今回、私ども葉山町社会教育委員の会議では、「生涯学習に関する町民ニーズ調査」や「子ども読書活動推進計画策定に関わるアンケート調査」から見えてきた「読み聞かせ活動」に焦点を当てて発表いたします。

近年、全国的にデジタル化が進み、世代を問わず読書離れや、国語力の低下が叫ばれていますが、葉山町では予てより読み聞かせ活動が盛んで、様々な団体が独自に活動していました。葉山町社会教育委員の会議では、この活動に着目し調査を行ったところ、そこには、様々な問題や悩みがあることがわかりました。そこで、葉山町の読書活動のさらなる充実に向けて団体同士の情報交換や研修の場を提供すること等に取り組みました。

是非、私どもの調査研究内容をご一読頂きまして、忌憚のないご意見ご感想などお聞かせ頂けましたら幸いです。

今後も先の見えない状況が続くことが予想される中ではありますが、どのような社会教育活動を行っていけばよいのか、知恵を出し合い、社会教育の灯を消さないことを誓いながら活動して参りたいと存じます。

末筆ではございますが、皆様の更なるご健勝とご活躍をお祈り致しております。

I 葉山町の紹介

葉山町は、三浦半島の西北部に位置し、北は逗子市、東部、南部は横須賀市に接し、西は相模湾に面しています。面積は17.04平方キロメートルで東西にやや長く、西半部は、市街化が進んでいます。人口は約3万3千人で、東京から50キロ圏内に位置しており、住宅と観光の町として発展しています。

葉山町歌は、明治から昭和にかけて詩人・歌人として活躍した堀口大學と、歌劇「夕鶴」や童謡「ぞうさん」などの作曲で知られている團伊玖磨の作詞作曲によるものです。

町の木は「くろまつ」、町の花は「つつじ」、町の鳥は「うぐいす」です。

写真で見る葉山の魅力



Ⅱ アトラクション団体の紹介

地区研究会（葉山会場）において発表を予定していた、葉山町に残る伝統芸能の団体をご紹介します。

◇葉山御前太鼓保存会

葉山御前太鼓保存会は、昭和 55 年「葉山の郷土芸能を作ろう」と、町の消防団員らが中心に、葉山太鼓保存会として結成発起いたしました。

昭和 56 年 11 月に新たな葉山御用邸が落成され、翌昭和 57 年 5 月に天皇皇后両陛下の御前にて和太鼓演奏を披露させていただきました。これを機に、当時の葉山町長より正式に「葉山御前太鼓保存会」と命名されました。

現在は、会員 17 名で、葉山町の行事や地域団体の式典、高齢者施設への慰問等で演奏させていただいております。ホームページにて普段の活動状況等をご紹介しますので、ぜひご覧ください。

ホームページはこちら→



葉山町出初式での演奏の様子

◇葉山町木遣保存会

相州葉山一色木遣保存会は、一色森山社の神社付き木遣（きやり）として平成8年の行合祭（ゆきあいまつり）を契機に結成されました。以来24年間森山社の例大祭には欠かせぬ存在となり、御神輿（おみこし）の先導役として祭礼に花を添えております。

古来、木遣は様々な作業の掛け声が唄へと変化したもので、木材の運搬や建築作業時、土地を突き固めたりする際、唄で息を合わせることにより、タイミングやペースを合わせ、より大きな力を生み出しやすくするなどの意義がありました。

現在では主に、おめでたい行事や祭礼、上棟式や消防出初式などで歌われる伝統的な祝い唄として、全国各地で多種多様な木遣が唄い継がれております。まず一人の兄役の木遣師が、掛け声となる「音頭」を唄い掛け、大勢の弟役が「側」で唄い応え、音頭と側で掛け合いながら交互に唄い続けて曲を盛り上げていきます。

森山社例大祭においては、御神輿の宮出しから宮入りまでの2日間、立ち上げや巡行時に唄で先導しながら練り歩き、景気を盛り上げる役を担っています。

また当保存会は、森山社の例大祭に参加するばかりでなく、最近では葉山小学校の音楽の授業にも取り上げられ、「ふるさとの音楽」として毎年5年生を対象に木遣の由来、歴史等を一緒に勉強しております。

小さいときから、地元に唄い継がれている伝承文化であります「木遣」に馴染んで頂き、ずっと唄い継がれて行くことを願っております。



Ⅲ 人権講話

葉山町職員として勤務しながら、2020 東京パラリンピックへの出場を目指す小曾根さんへ人権講話を依頼いたしました。

車椅子の世界

こそね りょう
小曾根 亮 (37)

- ・ 横浜市在住
- ・ 2018 年 4 月～葉山町役場勤務
- ・ パラ陸上 F 54 クラス やり投、円盤投、砲丸投
日本記録保持者

日本代表歴

- ・ 2010 年 広州 2010 アジアパラ競技大会（中国）
- ・ 2013 年 2013IPC 陸上競技世界選手権大会（フランス）
- ・ 2018 年 インドネシア 2018 アジアパラ競技大会（インドネシア）
- ・ 2019 年 ドバイ 2019 世界パラ陸上競技選手権大会（UAE）



2006 年 1 月 10 日。腰痛のために訪れた病院の処置室へ向かったのが私の最後の徒歩になった。そこで医療事故により足が動かなくなったのだ。2 日後に手術を行うも症状は変わらない。始めは「そのうち動くだろう」と思っていたが、何日経っても動く気配はない。およそ 2 か月後、医師から「もう動くことはないだろう」と告げられた。私はショックを受けたが、それ以上に同席していた家族の方がショックを受けているように見えた。車椅子生活になっても楽しんで生きている姿を見てもらいたい。それがスポーツを始める最初の原動力であった。



およそ 2 年間、リハビリ病院と訓練施設で過ごし、着替えや風呂などの生活関係や、手動式のレバーでアクセル・ブレーキを操作する自動車も運転できるようになり行動範囲が大きく広がった。そしてパラ陸上を始めた。

友人や家族、そして競技スタッフなど、周りの多くの人たちが練習や試合のサポートなど協力してくれた。そのおかげもあり順調に競技力を上げていき、2010 年のアジアパラ大会で初めて日本代表に選ばれた。以降も世界選手権 2 回とアジアパラ大会に 1 回出場している。しかしパラリンピックには 1 度も出場していない。携わってくれた人たちや応援してくれる人たちの為に、そして競技者としての自分自身の最大の目標として、是非とも東京パラリンピックに出場したい。

さて、車椅子生活になって14年になる。生活は健常者の時よりも大変になり、出来なくなったことや、行けないところも多くなった。それでも昔からの友人は以前と変わらず接してくれる。職場でも駐車場や机の配置、機器の高さなど私が使用しやすいように配慮して頂いていて、出来ない部分は積極的に手伝ってくれる。こういった思いやりはとても嬉しく、とても有難い。

バリアフリーという言葉がある。バリアフリー社会を成立させるには大切なことが2つある。1つは設備。段差の解消やエレベーターなどハード面である。そしてもう1つが上記のような思いやりの心などのソフト面である。人自身が接する人に対して思いやりの心を持つことが重要であり、バリアフリー設備を整えて終わりではなく、ハード面とソフト面の2つが合わさって初めて真のバリアフリー社会といえるのではないだろうか。

健常者の時の自分を振り返って、例えば、《点字ブロックの上に自転車を停めない》や、《車椅子トイレに向かう狭い通路に物を置かない》など、配慮が出来ていたであろうか。考えれば分かるのだが、そもそも考える機会がほとんどなかった。障害者について学ぶこと、理解することが思いやりに変わり、心のバリアフリーに繋がるのではと思っている。

もちろん障害者だけではなく他のマイノリティーな人たちに対しても同じである。

パラ陸上の国内外の大会では、障害者と健常者の間に壁がなく、分け隔てのないボーダーレスの世界が広がっている。

世の中が少しでもこのような雰囲気になってくれば嬉しく思う。



IV 活動紹介

生涯学習活動に関する調査研究から見たこと ～読み聞かせ活動の充実に向けた取り組み～

はじめに

葉山町社会教育委員の会議（以下、「本会議」という。）では、「生涯学習に関する町民ニーズ調査」と「葉山町子ども読書活動推進計画策定に関わるアンケート調査」の2つの調査結果および本会議の委員が所属する読み聞かせサークルから寄せられた要望等から、「生涯学習活動に関する調査研究から見てきたこと～読み聞かせ活動の充実に向けた取り組み」というテーマを設け、研究に取り組むことにしました。

活動紹介1では、「生涯学習活動に関する調査研究について」と題し、「生涯学習に関する町民ニーズ調査」および「葉山町子ども読書活動推進計画策定に関わるアンケート調査」について紹介いたします。

活動紹介2では、活動紹介1の結果から着目した葉山町の読み聞かせ活動についてご紹介し、把握した現状・課題を受け、本会議が行った取り組みについてご紹介いたします。

活動紹介1「生涯学習活動に関する調査研究について」

（1）「生涯学習に関する町民ニーズ調査」について

本会議では、図1のとおり平成14年度と平成27年度の2回にわたり「生涯学習に関する町民ニーズ調査」を行いました。

この調査は、町民の要望や学習活動の実態を把握し、これからの生涯学習社会の推進に役立てることを目的に実施したものです。なお、平成14年度の調査では、調査結果の集計・分析作業を行い、平成16年3月に「生涯学習をさらに推進していくために」という提言書をまとめ、教育委員会に提出いたしました。

図2のとおり、両調査を比較すると生涯学習の目的については、どちらも「趣味・生きがい」と回答した人が最多でしたが、平成27年度調査では、地域交流を目的とした方が13%増加していました。生涯学習活動の具体的な内容については、平成14年度調査では、旅行・パソコン技能の習得等

生涯学習に関する町民ニーズ調査比較		
	平成14年度	平成27年度
調査対象	町内会 他PTA・講座受講者等	無造作抽出 他PTA・講座受講者等
配布数	3,000枚	3,000枚
回収枚数 (回収率)	1,411枚 (47%)	1,132枚 (37.7%)

図1. 生涯学習に関するニーズ調査比較

生涯学習に関する町民ニーズ調査 結果比較	
	
生涯学習の目的	
・どちらの調査も「趣味・生きがい」が最多。 ・「地域交流」と答えた方が13%増加。	
生涯学習の内容	
・平成14年度は、旅行・パソコン等が最多。 ・平成27年度は、社会活動（読み聞かせ等）が最多。	

図2. 生涯学習に関する町民ニーズ調査結果比較

が多くを占めていましたが、平成 27 年度調査では、読み聞かせ・子育て・ボランティア等が多くを占めていました。



本会議が行ったこれらの調査から、個人の趣味や教養を高める活動から、地域交流や読み聞かせ等の社会貢献的な活動が増えてきたことがわかりました。

（２）「葉山町子ども読書活動推進計画策定に関わるアンケート調査」について

現在、葉山町では、「第二次葉山町子ども読書活動推進計画」が策定されており、本計画には、策定当初から本会議が携わってきました。

図 3 のとおり、「第一次葉山町子ども読書活動推進計画」では、「読書を通じて心の豊かな子どもたちへ」を目標に掲げ、7 つの取り組みを定め、学校・家庭・地域・行政が連携し、読書活動を支援してきました。

「第二次葉山町子ども読書活動推進計画」では、第一次計画で定めた 7 つの取り組みを、図 4 のとおり 3 つに整理し、計画を推進しています。

本会議では、第一次計画および第二次計画の策定の基礎資料とするため、アンケート調査を 2 回実施いたしました。

2 回のアンケート調査結果を比較すると図 5 のような傾向がありました。家庭での読み聞かせ活動を実施している保護者の割合が 55% から 59% に増加しており読み聞かせへの保護者の意識が高まっていることを確認することができました。一方、子どもが 1 カ月に読む本の冊数は減少していました。

また、本を好きになった子どもの多くは面白い本を読んだことがきっかけで、本が嫌いな子どもの多くは、おもしろい本との出会いがなかったことをその理由として挙げていました。

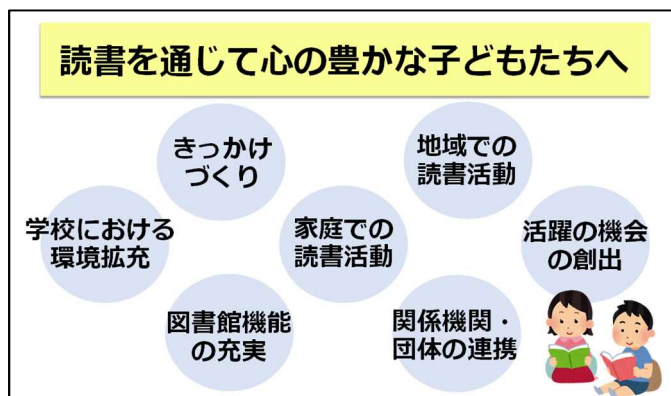


図 3. 第一次葉山町子ども読書活動推進計画



図 4. 第二次葉山町子ども読書活動推進計画

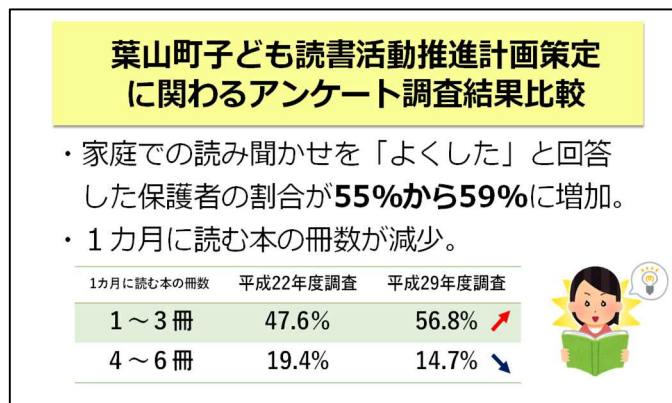


図 5. アンケート調査結果比較



本会議は、子どもたちの読書活動推進のためには、小さいころから読書に親しむ機会や環境が必要であり、そのためには読み聞かせ活動のさらなる充実や定着化、魅力的な本と出会えるきっかけ作りが求められると考えました。

活動紹介 2 「葉山町の読み聞かせ活動について」

(1) 現状

葉山町では、町内にある4校すべての小学校で、保護者の読み聞かせサークルの活動が行われています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、学校での読み聞かせを実施することができていませんが、それまでは各読み聞かせサークルが、工夫を凝らした読み聞かせ活動を実施してきました。

令和元年度には、本会議が、町内の読み聞かせ活動の現状と課題を把握するために、4校すべての小学校の読み聞かせ活動の視察を行いました。

各読み聞かせサークルが、子どもたちのためによりよい読み聞かせをするため試行錯誤し、通常の読み聞かせ以外にも紙芝居や影絵、ブックトークやブラックシアターを取り入れた工夫を凝らした読み聞かせ活動を行っていることを把握することができました。



保護者による読み聞かせの様子



ブラックシアターとは？

←葉山小学校読み聞かせサークルによるブラックシアターをご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=IqPCnnMaS3A&feature=youtu.be>

また、学校以外でも、図書館や児童館で日常的に読み聞かせ活動が行われており、様々な場所で子どもたちへの読み聞かせ活動が盛んに行われていました。視察を行った結果、各読み聞かせサークルが独自のルールで活動していることにより、読み手による個人差や、選書の方法、読み方の技法など、様々な課題を抱えていることが分かりました。また、読み聞かせの方法などに関する研修会の必要性も感じるすることができました。



ブックトークの様子

（２）影響・効果

日々の読み聞かせ活動は、子どもたちにとって読書の習慣をつける効果があると考えられます。実際に、平成 30 年度全国学力学習状況調査において、葉山町の小学生は、読書や新聞を読む習慣が全国と比較して高いことがわかりました。日常的に、読み聞かせ活動により本を読む機会や活字に親しむ機会が増えていることが影響していると考えられます。

読み聞かせ活動による効果		
全国学力学習状況調査の質問より抽出	葉山町	全国
学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間読書を読みますか？ （「30分以上」と回答した割合）	43.5%	41.1%
新聞を読んでいますか？	29.1%	19.9%

図 6．読み聞かせ活動による効果

また、活動紹介 1 において示した、「葉山町子ども読書活動推進計画策定に関わるアンケート調査」によると、時々読み聞かせを行うと解答した保護者も含めると 9 割の保護者が家庭での読み聞かせを実施しており、大人にとっては生涯学習活動の一環となっていることがわかります。

なお、平成 31 年度には、葉山小学校読み聞かせサークルが「子供の読書活動優秀実践団体に對する文部科学大臣表彰」を受け、その活動が高く評価されました。葉山小学校読み聞かせサークルは、PTA 活動とは別に保護者の方により平成 13 年に結成され、現在約 100 人から構成されています。昨年度までは、学年を担当するグループに分かれて毎週 1 回各クラスを回り、朝の 10 分間を活用して読み聞かせを行い、加えて年に 3、4 回ブックトークなども行っていました。今回の受賞により、活動意欲がさらに高まったところでしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、現在活動が自粛されており、各自が家庭で選書活動や読み方の練習を行い、読み聞かせ活動が再開されたときに備えているとのことでした。

（３）課題

本会議では、視察結果を踏まえ、さらなる課題の把握のため、すべての読み聞かせサークルに参加を募り意見交換会を開催しました。

課題の把握だけでなく情報共有を図り、町内の読み聞かせサークル全体のレベルアップを図ることもねらいとしました。また、図書館や児童館の職員にも参加していただき、葉山町全体の読み聞かせ活動についても積極的に意見交換を行いました。



意見交換会の様子

図7のとおり、意見交換会に参加した方からの意見として、「研修には個人で見つけたものに参加している。」「おすすめ本を互いに紹介し合いたい。」「図書館への要望」など様々な意見が挙がりました。

また、「情報交換ができてよかった。」「今後も継続してほしい。」などの声をいただき、意見交換会が有意義なものとなり、継続への期待が感じられました。

意見交換会に参加した方からの意見

- ・学校の理解が得られず活動の幅が狭まっている。
- ・読み聞かせサークルの会員不足。
- ・団体としての研修の機会がない。
- ・おすすめの本を互いに紹介しあいたい。
- ・図書館には同じ本が複数ない。
- ・図書館の書庫に眠っている絵本を活用したい。



図7. 意見交換会に参加した方からの意見

さらに、このように町内の読み聞かせ団体が一堂に会する機会を利用して、葉山町における推薦図書のリストを作成するため、各団体で読み聞かせに使用している本を調査しました。各団体から約30冊の推薦本を提出していただき調整を行いました。各校で扱っている本と読み手の熱い思いが異なることや、専門性が必要だったため、作成までには至りませんでした。

(4) 課題解決の取り組みについて

本会議では、読み聞かせサークルの活動の一層の充実に向けて、図書館との連携等が必要であると考え、次のような取り組みを行いました。

① 図書館の研修会と読み聞かせサークルの意見交換会の一体化

葉山町立図書館ではこれまで、「おはなし会」という幼児向けの読み聞かせを行っていたことで、図書館職員対象の研修会を実施していました。本会議では、小学生の保護者である読み聞かせサークルのメンバーも参加できるように内容・講師を提案し、研修会を実施いたしました。



図書館研修会の様子



意見交換会の様子

研修会後には、読み聞かせサークルの意見交換会を実施し、サークル間のつながりを継続し、定期的な情報共有の場を設けることができました。

資料として前年度に読み聞かせを行った本をリストにして共有したり、定期的な研修会の開催により、各校読み聞かせサークルのレベルアップが期待されます。

今回は、本会議がコーディネート役となり読み聞かせサークルと図書館との連携を図りましたが、今後は図書館が中心となって実施していくこととなりました。さらには、図書館の在り方検討委員会のメンバーに本会議の委員も参加することになり、意見反映を行っていきます。

② 図書館展示コーナーを活用した各読み聞かせサークルの活動紹介

図書館の展示コーナーにて、各読み聞かせサークルの紹介やおすすめの本などの展示を作成してもらいました。未就学児の保護者や、サークルに加入していない保護者の目に留まることで、読み聞かせサークルの加入促進に繋げることもねらいとしました。



読み聞かせサークルの紹介 A



読み聞かせサークルの紹介 B

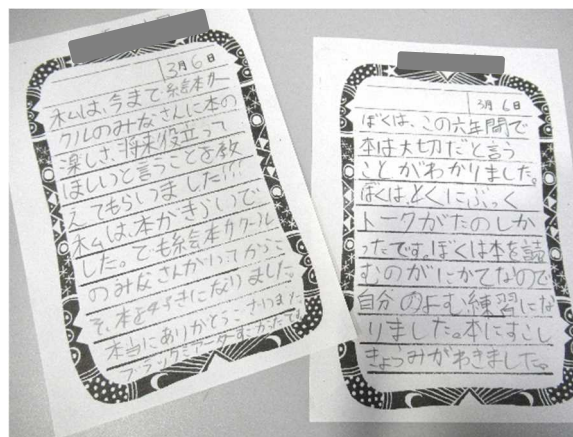
③ 学校への働きかけ

学校の協力が得られないという課題については、新学習指導要領の実施で授業時数が増えたことで時間確保が難しい現状が生じていることが原因として考えられます。校長会代表も本会議のメンバーの一員であるため、その委員を通じて各校に働きかけていくと共に、葉山町PTA連絡協議会等で話題にいただき、機運の醸成を図り、学校と協力態勢を築いて良い方法を見いだしていきたいと考えています。



読み聞かせサークルへの児童からの手紙 A

また、現在のコロナ禍においては、読み聞かせ活動を学校等で行うことが出来ません。本会議としては、新型コロナウイルス感染症を理由に活動を休止とするのではなく、築き上げた横のつながりをこれからも大切に、今できることを考え提案していきたいと考えています。例えば、PTAだよりや学校だよりなどを活用して、ストーリーテリングやブックトーク等を行ったり、様々な手段を検討したりして、提案していきたいと考えています。



読み聞かせサークルへの児童からの手紙 B

まとめ

最後になりましたが、本会議では、これまでの調査や住民の声を通して見えてきた課題を解決するために調査・研究を重ねてきました。

今回の発表では、これまでの調査等から「読書（読み聞かせ活動）」をテーマに掲げ、課題を把握し取り組んできたことを紹介させていただきました。昨今では新学習指導要領の導入や、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校における読み聞かせ時間の確保が困難になっていますが、小さいころから読書に親しむことによって与える影響や効果は子どもだけでなく大人にとっても計り知れないものがあり、さらなる推進が必要であると再確認することができました。

今回の調査・研究により、本会議が築き上げた読み聞かせサークル同士の連携や図書館との連携を継続し、今後も読書の重要性について積極的に広めることで、葉山町全体が読書に親しみやすい町になれるよう取り組みを推進していきたいと思います。



葉山町社会教育委員

葉山町社会教育委員

佐々木 和子（議長）

杉田 雅美

富樫 俊夫

中世 貴三（副議長）

羽田 志津枝

町田 緑

宮下 暁代

矢嶋 道文

山本 陽子

（50 音順）



令和2年度神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会
【葉山町会場】

発行：令和2年12月

編集・発行：葉山町社会教育委員の会議

事務局：葉山町教育委員会生涯学習課

葉山町堀内2050番地の9

046-876-1111